

予防接種は重症化しやすい感染症を防ぐ為に最も効果的です。しかし6歳までに接種したいワクチンが11種類と多く、種類に適した月齢や年齢、受ける回数、同時接種等、細かなルールもあり、保護者の方だけでは判断に迷うこともあるかと思えます。ぜひ信頼のおけるかかりつけ医に相談しながら進め、確実に受けることが大事です。今回はどのワクチンがどのような病気等に効くのか、ご紹介しようと思います。

(定期) **不活化ワクチン**
【 小児用肺炎球菌ワクチン 】

肺炎球菌
◎肺炎球菌で起こる感染症を防ぐ

- ・細菌が喉や鼻から体に入ると中耳炎や肺炎、さらに血液の中に入ると菌血症を引き起こす。
- ・菌血症・風邪に似た症状で早期診断が難しく、血液中に菌が入り込むことで、色々な臓器に移り、髄膜炎等で亡くなったり、重い後遺症が残ったりする病気を引き起こす。

(定期) **注射生ワクチン**
【 麻疹・風疹混合ワクチン(MRワクチン) 】

麻疹
◎麻疹と風疹を防ぐ

- ・麻疹・感染力がとても強く、高熱が続いて全身に発疹ができる。免疫が低下することで、肺炎・中耳炎を起こしやすく、まれに脳炎を起こすことがある。
- ・風疹・「三日ばしか」と呼ばれ、発熱・発疹・リンパ節の腫れ等の症状やまれに脳炎や血小板の病気等の合併症を起こすこともある。妊娠3ヵ月未満の妊婦が感染すると心臓・視力・聴覚に障がいを持った赤ちゃんが生まれる可能性がある。

風疹

経口生ワクチン
【 ロタウイルスワクチン 】

(R2.10/1~定期)
◎ロタウイルスによる感染症を防ぐ

ロタ

- ・激しい下痢や嘔吐、発熱が続く、急性胃腸炎で、乳幼児の多くがかかり、低月齢の赤ちゃんほど重症化しやすく、脱水によりショック状態になることがある。

(定期) **不活化ワクチン**
【 四種混合ワクチン 】

◎ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオを防ぐ

- ・ポリオ、ジフテリア、破傷風は予防接種の効果で日本では感染が見られないが、流行している国もあり、感染すると麻痺が起きたり、命に関わったりすることがある。
- ・日本で感染しやすい百日咳は激しい咳が特徴的で、呼吸困難や重い肺炎の合併症を起こすこともある。月齢が低いほど重症化しやすく、命に関わることもある。

ポリオ
ジフテリア
破傷風
百日咳

(定期) **注射生ワクチン**
【 水痘ワクチン 】

◎水ぼうそうを防ぐ

水ぼうそう

- ・感染者の咳やくしゃみ、接触により感染する。最初に小さな水膨れができ、これが大きくなり、かゆみが出る。次第に黒くなってカサブタ状態になる。重症化すると、脳にウイルスが侵入して脳炎を起こすことがある。
- ・带状疱疹・水痘が治っても、体の中にウイルスが長い間隠れていて、感染した人が高齢になったり、病気等で免疫が落ちたりすると、体の神経に沿って帯のように再び水膨れが並んで出るのが特徴で痛みが強い。

(H28.10/1~定期) **不活化ワクチン**
【 B型肝炎ワクチン 】

◎B型肝炎ウイルスによる肝臓の病気を防ぐ(世界で初のがん予防ワクチン)

B型肝炎

- ・感染力が強く、気づかないうちに血液、唾液、汗、涙等から感染するが、ウイルスを持っていても無症状の場合もある(乳幼児期になりやすい)。発症すると慢性化しやすく、肝硬変、肝がんへ進行する可能性がある。

(定期) **不活化ワクチン**
【 ヒブワクチン 】

◎ヒブ(※インフルエンザ菌b)による感染症を防ぐ(インフルエンザとは異なる)

ヒブ

- ・特に怖いのが脳を包む髄膜にこの細菌が入って炎症を起こす細菌性髄膜炎で、5%近くが亡くなり、30%近くが後遺症を残すとされている。

以前、接種後の副作用が問題となったが、新たなワクチンが開発され、今では安全に接種できます

(定期) **不活化ワクチン**
【 日本脳炎ワクチン 】

◎日本脳炎を防ぐ

日本脳炎

- ・ウイルスを持つ豚の血を吸った蚊に刺されると感染し、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれん等を起こし、死亡率も高い。
- ・日本では積極的な予防接種で免疫を持っている人が増えた為、感染はあまり見られないが、東南アジア等の国では流行が見られている。

(定期) **注射生ワクチン**
【 BCGワクチン 】

◎結核を予防する

結核

- ・咳やくしゃみから感染して、発熱や倦怠感等の症状が長期化する。特に乳幼児は重症化して、菌が全身に広がったり、脳を包む膜が感染し、20%が後遺症を残したり、命の危険を招く。

(任意) **注射生ワクチン**
【 おたふくワクチン 】

◎おたふくかぜを防ぐ

おたふく

- ・潜伏期間が長く、発病しても症状が出ないこともあり、気づかず生活していると接触して感染することもある。軽症の場合が多い反面、まれに無菌性髄膜炎や脳炎等の合併症を起こし、重度の難聴になる場合もある。思春期以降に感染すると卵巣炎、精巣炎を起こし、不妊の原因になることもある。

(任意) **不活化ワクチン**
【 インフルエンザワクチン 】

◎インフルエンザウイルスによる感染症を防ぐ

インフルエンザ

- ・主に冬から春にかけて流行し、感染すると高熱、頭痛、関節痛等、つらい全身症状が出て、治るまでに1週間ほどかかる。乳幼児は気管支炎や肺炎等の合併症を起こしやすく、インフルエンザ脳炎になる割合も高めである。

病児・病後児保育施設は複数の病気のお子さまを保育しますので、予防接種を受けることをお勧めしています。

※参考文献:「子ども病気SOS」・「感染症キャラクター図鑑」等